



福岡県立大学広報

Fukuoka Prefectural University

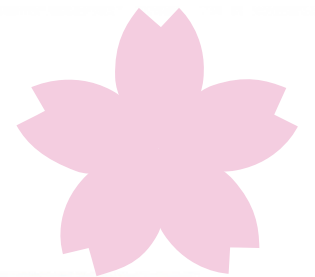
Kendai

magazine 2016 春号

no.20

Contents

卒業式	P2
成績優秀者	P3
公開卒業論文・研究発表会/ インターンシップ報告会	P4
就職活動奮闘記	P5
国際交流	P6・7
秋興祭	P8
サークル紹介	P9
教員研究紹介	P10
退職教員紹介	P11
基金／入学者のみなさまへ	P12



福岡県立大学



卒業式

平成28年3月18日(金)、平成27年度卒業式が行われ、学部229名、大学院21名の計250名に卒業証書・学位記が授与されました。

柴田洋三郎学長は式辞の中で俳人・松尾芭蕉の「古人の跡を求めず、古人の求めたるところを求めよ」という言葉を紹介し、絶えず新たな挑戦を心がけて欲しいという激励の言葉を送りました。

学生表彰では、成績優秀者として、公共社会学科の森岡咲希さん、社会福祉学科の縄田沙也加さん、人間形成学科の田中七津美さん、看護学科の上戸理穂さん、橋本優さん、丸山佳子さんの計6名の卒業生が表彰されました。

学部卒業生代表として看護学部丸山佳子さん、大学院修了生代表として人間社会学研究科の矢部航さんが謝辞を述べ、最後に福岡県立大学吹奏楽団の伴奏で学歌を会場全員で合唱して式を終了しました。



▲謝辞を述べる丸山佳子さん(左)、矢部航さん(右)

▲式辞を述べる柴田学長





人間社会学部
公共社会学科
森岡 咲希

大学生生活の4年間では、授業やアルバイトなどを通して様々な出会いがあり、それらの出会いが私を成長させてくれました。特に授業では、ゼミをはじめとして仲間と意見を交わす機会が多々あり、様々な人たちの意見を参考に物事を考える力が、また、自分の意見を言う力を養うことができたと思います。

就職活動や卒業論文は大変でしたが、先生方のサポートもあり、友人と励まし合いながら乗り越えることができました。授業での知識やアルバイトなど、大学生生活でのあらゆる経験がそこで役に立ったと思います。卒業後は、大学生生活での学びを活かして業務に励み、日々成長していきたいです。



人間社会学部
社会福祉学科
縄田沙也加

福岡県立大学で過ごした4年間は、さまざまなことを経験できた期間でした。苦手意識のあった接客業をアルバイトに選び、人と関わることの楽しさを学びました。ボランティアやサークル活動、実習では、学生という立場であるからこそできる貴重な体験の中で、自分の視野を広げることができました。

最後の1年間は、精神保健福祉実習、就職活動、卒業論文、国家試験などを控え、乗り越えられるか不安でいっぱいの日々でした。辛いことや失敗することもありましたが、先生方や学科の友だち、家族などたくさんの人に支えられ、楽しみながら取り組むことができました。この4年間での収穫を今後の生活につなげられるよう、これからも努力していきたいと思っています。



人間社会学部
人間形成学科
田中七津美

大学生生活を振り返って、私は図書館など家以外の場所で勉強することが多かったように思います。私は元々、一人だといふタイプでしたが、図書館など自分と同じように勉強している人たちが周りにいる環境のおかげで、怠けてしまいそうな気持ちに負けずに頑張ることができたのだと思います。また、とくに試験前などは、目標を持って勉強するようにしていました。「何日までに、この部分まで勉強する」などの小さな目標でしたが、小さな目標を多く立てて達成感を得ることがやる気につながり、コツコツ勉強することができたのだと思います。今後も目標を持ちながら、多くのことを学んでいきたいと思っています。

成績優秀者 として表彰された卒業生の皆さん



看護学部
看護学科
上戸 理穂

私はこの4年間で、看護学を学ぶだけでなく、将来に繋がる貴重な経験が出来たと思います。私は、東日本大震災をきっかけに、救急・災害看護を目指すようになりました。そのため、救急外来の見学会や災害訓練に参加するなど、なるべく様々な体験をするようにしました。また、産業保健や国際看護など、救急や災害以外の分野で働く方の話を聞くこともありました。このようにいろいろな経験をしたことで「病棟でも働いてみたい」「やっぱり災害看護に携わりたい」など、具体的な方向性を考えることが出来ました。勉強やアルバイト、友人と遊ぶことももちろん大切ですが、自分から積極的に何事にも参加することで様々な経験が出来ます。ここが、私にとって大学生生活の良いところだと思います！



看護学部
看護学科
橋本 優

私は大学生生活の学業において、何事も早めに計画を立て準備を徹底するよう心がけていました。その理由は、勉強を進めるペースが周囲よりもゆっくりで、時間がかかることを自覚していたからです。定期試験、実習、大学院試験という波を乗り越えるのは決して楽ではありませんでしたが、多くの方に支えられながら一步一步成長していくことができました。大変な時期に同じ目標に向かって共に頑張ってくれた仲間、いつも丁寧にご指導くださった先生方、私の夢を応援し続けてくれた家族に、心から感謝しています。卒業後は大学院に進学し、助産師になるための勉強をします。今後も支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって歩んでいきたいと思っています。



看護学部
看護学科
丸山 佳子

大学での4年間は、講義や実習はもちろん、ボランティア活動等にも参加し、数多くの貴重な経験をする事ができました。特に、3年次から4年次にかけては、看護実習、教育実習、就職試験、統合実習、卒業論文、国家試験ととても忙しく、大変な時もありましたが、丁寧にご指導くださった先生方のおかげでやり遂げることができました。辛かったことも、今となっては良い思い出となり、楽しかった記憶ばかりが残っています。何より同じ目標を持って、切磋琢磨しながら、お互いを高め合える友人たちに出会えたことは、一生の財産です。これからも学ぶ姿勢を持ち続け、様々なことに取り組んでいきたいと思っています。4年間、ありがとうございました。

公開卒業論文・研究発表会

本学では、2月2日に人間社会学部、2月22日～3月8日に看護学部で、それぞれ平成27年度公開卒業論文・研究発表会を開催しました。

事前にホームページ上に発表論文題目を含むプログラムを掲載し、学外の方々にも参加の案内をし、学生・教職員のべ196名、学外参加者のべ53名に参加していただきました。

公開卒業論文・研究発表会では、学生が各専攻分野で関心のある研究テーマについて、プレゼンテーションやポスターセッション形式で発表が行われました。

本学は、地域に支えられている大学として、その教育の成果を広く公開する必要がある、という考えのもと、公開卒業論文・研究発表会を行っています。

今後とも教育の充実はもとより、その成果の公開にも努めてまいります。



インターンシップ報告会

平成28年3月1日（火）に平成27年度「インターンシップ報告会」を開催いたしました。学生33名、教職員17名、一般参加者（受入先等）4名の参加がありました。

「インターンシップ報告会」では、イギリスで3週間滞在し、日常英語やイギリス文化の学習、イギリスの職場で働く方へのインタビュー、小学生に折り紙や日本語を教える体験等を行う実習科目「海外語学実習」、職業選択準備型の「インターンシップ」、課題発見・解決力を養うことを目的として受入先が抱える課題に取り組む「中長期・実践型インターンシップ」を体験した学生代表者からの報告がありました。また、1・2年次生を対象として夏季と春季に各5日間2回（もしくは10日間1回）の就業体験をする実習科目「プレ・インターンシップ」を体験した24名の学生たちが、ポスターセッション形式で報告をして、受入先や本学教職員と活発な質疑応答を行いました。

学生たちはいきいきと発表を行い、参加者に体験を通じた学びや成果が伝わる大変良い報告会でした。

この取り組みを支援していただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。





人間社会学部 公共社会学科
中村 友香

内定先
**山口フィナンシャル
グループ**

私はもともと地元就職したいと思っていたので、まずは合同説明会や就職サイト、ハローワークなどを活用して、自分の働きたいと思う職種を見つけることに専念しました。

就職活動をするにあたり、自分が何をしたいのか、どんなことを仕事にしたいのかがハッキリとわからず、焦っている方も多いのではないかと思います。私も最初は漠然としていて、周りの就活生たちがみんな明確に自分のやりたいことを理解しているのではないかと焦る日々でした。しかし、就職活動は新卒だれもが初めての経験です。面接や企業研究の機会を経る中で、今まで気付くことのできなかった自分の魅力や力、強みと出会えることも多くあります。早く就職先が決まればいいと焦るのではなく、ぜひ自分自身と向き合って、自分の納得のいく就職先と巡り合う良い機会にしていって欲しいと思います。頑張ってください！



人間社会学部 社会福祉学科
吉川 翼

内定先
**草津市
社会福祉協議会**

元々公務員志望で、2年生後期から勉強を始め、予備校に通いました。約30科目にも及ぶ筆記試験の勉強は厳しいものでした。面接対策では、先生方や友人にお願いし、想定問答を繰り返し行い、また、仕事内容を知るために、実際にお話を頂くこと、書籍を読むことで情報を集めました。結果として、警察・国税専門官から内定を頂くことができました。

しかし、県庁主催のフォーラムに参加し、協働をテーマとした福祉関係の仕事に就きたいという思いを感じるようになりました。その職種として県庁・市役所・市社会福祉協議会を考え、内定を頂いた市社協にて働くことを決意しました。この市社協は、実習でお世話になった所でもあり、その際の職員の方々の仕事への熱意が印象的だったことも後押ししました。

市社協職員として、地域住民の方々の言葉に耳を傾け、住みよいまちづくりのために日々精進します。



人間社会学部 人間形成学科
河崎 麻希

内定先
法務省（法務教官）

法務教官とは、少年院や少年鑑別所などに勤務する専門職員です。私は大学2年次から筑豊BBS会という、非行少年を対象としたボランティア団体に入会し活動させていただいたことから、法務教官として加害者である少年たちの被害者の部分を受け止め、問題の解決を手伝いたいと思い志望いたしました。

試験対策、特に面接対策の中で痛感したのは、試験に合格するためだけでなく、「大学で何を学んだか」「自分の能力をどう生かせるか」「この職に就くにあたって自分に足りていないものは何か」など、実際に職に就く前に整理するためにも重要だということです。

4月から法務教官として、これから出会う少年たちの問題解決を手伝い、出院後に夢や目標を持って生活してもらえるよう関わっていきたくと思います。



看護学部 看護学科
古賀 義将

内定先
那珂川町

私は福岡県那珂川町の保健師として4月から勤務させていただくことになりました。

筆記試験は専門試験のみであったので国家試験問題集で対策を行いました。面接試験については、同町で実習を行った学生から地域の特性や保健師の取り組みを伺うことで、より具体性のある回答を考え、教員に添削・指導をしていただきました。

就職試験の期間が保健師課程の実習の最中であったので、記録物を書き上げたあとに就活の準備をするという日々を過ごしており、決して万全の体制で試験に臨めたわけではありません。しかしその分、実習での経験や学びを思い出すことができ、面接に活かすことができたのはとても大きかったと思います。これから就職活動が始まるみなさんは、将来何になりたいのか、何がしたいのか精一杯自分と向き合ってみてください。みなさんがやりたいと思う仕事が見つかることを祈っています。私も社会の荒波に揉まれてきます。



Kendai

韓国の威徳大学と国際交流協定を締結しました



平成27年11月25日、福岡県立大学と韓国慶州市にある威徳大学の間で、国際交流協定が締結されました。締結は威徳大学で行われ、協定書に両学長が署名しました。

福岡県立大学は、全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を新たに立ち上げ、特に中国・韓国に特化した国際人材養成に力を注ぐ方針を打ち出しています。その一環として、威徳大学とは、長期留学（4年次卒業可能コース）や短期研修（おためし留学）等の学生の交流をはじめとして、教育研究分野での教員交流も視野に入れていきます。

平成28年2月18日には、威徳大学視察団の教員6名、学生15名が本学を訪問し交流を深めました。今後の交流の活発化が期待されています。

国際交流

Kendai

韓国留学生、後藤寺小で交流

本学韓国留学生6名（三育大学校および大邱韓医大）は後藤寺小学校（田川市）の3・4年生たちと交流しました。これは同小学校において韓国・吐月初等小学校（慶尚南道昌原市）との国際交流教育や地域の教育資源を活用した体験的活動を導入して、特色ある教育課程を編成されていることから、2016年度に予定されている韓国訪問をより有意義なものにするため、留学生達に韓国でのコミュニケーションや韓国文化について教えてほしいとの要望がなされたものです。

留学生たち6名は、11月11日と18日の2日間にわたり、小学3・4年生のクラスに入り、地域の子もたちとの交流を進めました。

ハングル文字、韓国旗の意味などについて、小学生たちにレクチャーをするとともに、韓国料理、K-POPなどの文化紹介を行いました。K-POPには小学生たちもなじみがあるためか、強く反応していました。実際、小学生たちに話を聞いてみると、K-POPはもちろん、家族と一緒に韓国ドラマにはまっているという子どもたちもたくさんいて、若年世代においても予想以上に文化交流は進んでいるなあと感じました。

また、韓国留学生たちにとっても、純粋な小学生たちとの交流を通じ、新たな日本人感を発見したとのことでした。

本学では、このような地域の国際化に資する取り組みを今後とも進めていきます。





Kendai

中国大学訪日団(100名)が本学を視察



11月30日(月)、外務省抛出団体の日中友好会館(東京都)の招へいによる中国大学生訪日団(100名)が社会福祉教育を学ぶため、本学を視察しました。

本事業は安倍首相の提言ではじまった「JENESYS2.0」の一環として行われたもので、日本の社会福祉、ボランティアに関するプログラムや、政治・歴史・文化・社会等さまざまな視察、見学を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めてもらうことを目的に実施されたものです。

本学では、社会福祉学科の概要説明をはじめ、授業参観や4つのサークルがボランティアの取り組みの紹介を行うとともに、折り紙やけん玉といった我が国の遊びを通じ、同世代の大学生同士で親睦を深める交流会を行いました。

これにより、中国学生に対し日本への理解を進めることができたことはもちろん、外国人と交流したことで「語学や勉強、そしてボランティア活動等に対して、前向きになった」の意見が本学学生から出されるなど、学生にとってよい刺激になったようです。

Kendai

韓国・大邱韓医大学校短期日本語研修生、来学

本学では1月10日から2月6日までの約1か月間、協定校である大邱韓医大学校から短期日本語研修生を受け入れました。日本語の学習のほか、本学学生との交流会や地域の小学校訪問で若年者同士の相互理解を進めるとともに、茶道体験や九州国立博物館、いのちのたび博物館、太宰府天満宮などの視察を通じて、日本の文化や歴史についても理解を深めてもらいました。

最初は慣れない土地で不安そうな研修生達でしたが、慣れると顔見知りになった日本人学生達と片言の日本語や携帯電話のアプリでコミュニケーションをとるなど、交流を深めていました。



福岡県立大学 国際交流プログラム

福岡県立大学では、異文化との交流体験を通して、多様な文化・人々に対する理解力やコミュニケーション力を養成することを目的とした次のようなプログラムを実施しています。

ステップアップ

韓国短期研修

春季の5日間、韓国の協定校を訪問し、現地の学生と大学の内外で交流を行います。異文化交流の第1歩となるプログラムです。

海外語学実習

夏季の3週間、イギリスで現地の人たちと「英語で話す・調べる・伝える」体験を通じて、英語コミュニケーション力を身に付けます。

※事前指導と合わせて、正課教育科目として単位が認定されます！

交換留学制度

1年間、本学の協定校に留学し、語学や現地の社会事情などを学びます。現地の学生や各国からの留学生との交流の機会も多く設けられています。

※留学中は協定校の学生寮に滞在可能で、大学からの支援金を受けることもできます！



第24回秋興祭も大変多くのご来場を賜り、深く感謝申し上げます。会場の盛り上がりは、降水確率70%の予報もはねのけてしまうほどでした。

今年の秋興祭でも、子どもから大人まで楽しめる企画や地域の方々や学生と一緒に創り上げるステージなど様々な催しを取り入れました。また毎年恒例となっているシンボル大アートや提灯、ステージでのミスコン企画なども多くのお客様にご覧いただき大成功に終わることができました。これも秋興祭にご支援してくださる皆様のおかげであることを、委員一同深く感謝しております。

総勢128名と過去最大の委員で創り上げた今年の秋興祭でしたが、1人1人が全力を尽くし、より多くのお客様に福岡県立大学にお越しいただけるよう努めて参りました。まだまだ課題の残るところもあり、この秋興祭は「完成されない場所」として日々進化し続ける存在でありたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

第24回秋興祭実行委員会 実行委員長
北野 真理奈





運動系サークル

女子バスケットボール部

こんにちは！女子バスケットボール部です。私たちは、プレイヤー 17 名、マネージャー 6 名の計 23 名で活動しています。日頃の練習は火曜、木曜、土曜の週に 3 回行っています。男子バスケットボール部の方々とともに仲がいいので、一緒に練習することや、試合をすることもよくあります。その結果、昨年度の北九州インカレでは、準優勝という好成績を取ることができました！他にも、年間を通してたくさんの大会や試合に参加していますが、中でも田川リーグや田川市民大会では、地元のチームの方々と交流できるととてもいい機会になっています。

しかし、女子バスケットボール部のいいところはそれだけではありません！部員はみんなとても仲良しで、人数も多いので、たくさんの友達ができることは間違いなしです！また、マネージャーも含めてバスケの試合をすることや、プチ運動会などをしており、いつも全力で楽しんでいます！やる時はやる、楽しむ時はとことん楽しむ、それが私たちのモットーです。

プレイヤー、マネージャーともにたくさんの方を募集しています。バスケ初心者も大歓迎です。大学生活を充実させたい方、少しでも興味がある方は、ぜひ体育館に見学に来てみてください。お待ちしております。

【部長】看護学部 看護学科
樋口 千晶



サークル紹介



文化系サークル

献血サークル

けんけつっち

私たちは若年層を中心に献血のことを知ってもらうため、そして献血者数を増やし血液の安定した供給を目指し、活動を行っています。

私たちは北九州学生献血推進連盟という団体に所属しています。新たに九州栄養福祉大学が加わり、西日本工業大学、九州国際大学、西南女学院大学、九州工業大学、九州女子大学、これら北九州の 6 大学と協力し、血液センターの方にご指導いただきながら活動しています。

主な活動は、5月に博多どんたく港まつりのパレードへの参加や福岡・北九州での合同合宿、8月と12月にあるサマーキャンペーン・クリスマスキャンペーンという街頭献血など盛りだくさんです。そして、月に1回ある定例会でこれらのイベントに向けた話し合いや準備などを行います。

各大学がそれぞれの大学内で行う学内献血にも力を入れています。どのような広告をしたらよりたくさんの学生に献血をしてもらえるか、献血について知ってもらうにはどうしたらいいかを学生で考え、実行をします。

ほとんどの活動が学生主体で行われ、他大学との交流もたくさんあるので、大きなやりがいを感じることができます。皆さんも一緒に献血を推進していきましょう。

是非けんけつっちに足を運んでみてください。

【部長】人間社会学部 公共社会学科
森川 亜耶



再生医学・再生医療、スキンケアの2つのテーマを中心に研究を進めています。

研究として、大きくは①再生医学・再生医療、②スキンケアという2つのテーマを中心に研究を進めています。

①再生医学・再生医療

我々ヒトは戦争や事故などで手足を失ったら、二度ともとに戻ることはありません。しかし、この地球上では、手足を失っても、もとどおりに手足を再生できる動物がいます。そのようなスーパーマンみたいな動物とは、有尾両生類のアカハライモリや、ウーパールーパーの愛称で呼ばれるアホロートルです。彼らは、手足のどこを切断しても、もとに戻ります。それは、イモリは手足を切断された後、残った皮膚や筋肉の組織細胞が多分化能を持った細胞に変身し、手足を再生できるからです。そのような一度分化した細胞が多分化能を持つことはヒトではありえないと考えられていましたが、山中先生のiPS細胞の研究から、ヒトでもそのようなことが可能であることが証明されました。イモリは手足を切断されると、自分の力でiPS細胞を作ることができ、手足を再生できるのです。イモリがどのようにしてiPS細胞のような細胞を作れるのか？また、iPS細胞でもまだ成功していない手足の再生をイモリはどのようにしてできるのかということ細胞培養技術などさまざまな技術を使って解析しています。写真のイモリの培養細胞は、私が研究室で確立した世界で2例目のイモリの培養細胞です。このようなイモリの細胞で手足の再生のメカニズムの秘密に迫ろうとしています。

②スキンケア

我々の皮膚は我々の体を覆っている単なる細胞シートではありません。外の世界からの情報を受け取り、それを適正に体の中に伝えたり、外からの攻撃（紫外線やばい菌）からわれわれの体を守る重要な働きをしています。近年、アトピー性皮膚炎など皮膚に障害を持つ方が増えてきています。しかし、実は、我々の皮膚は多少の怪我や火傷であれば、もとに戻る再生力を持っています。

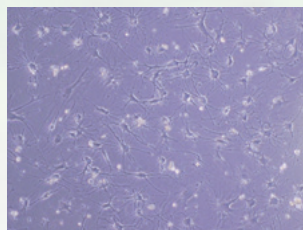
そこで、私は、その皮膚の再生力を補うためのスキンケアリートの開発を進めており、殺菌抗菌と創傷治癒にとっても高い効果を示すスキンケアリートの開発に成功しました。このスキンケアリートの成分や製造方法に関する特許も2016年3月にいただくことができました。現在、このスキンケアリートを福岡県内の企業と製造・販売することをめざしています。

さらに、このようなスキンケアなどに使える殺菌抗菌効果がある物質の探索を学生さんと一緒に日々行っています。また、最近、脱臭に高い効果を示すスキンケアリートの開発にも成功し、体臭や加齢臭対策として利用できるのではないかと解析を進めています。さらに、褥瘡（床ずれ）対策用にスキンケアリートの開発も進めています。

研究室には、ほかにも、ブラナリアやウーパールーパー、皮膚に毛のないヘアレスマウス、アフリカツメガエルなどいろいろな動物がいます。ぜひ遊びに来てください。



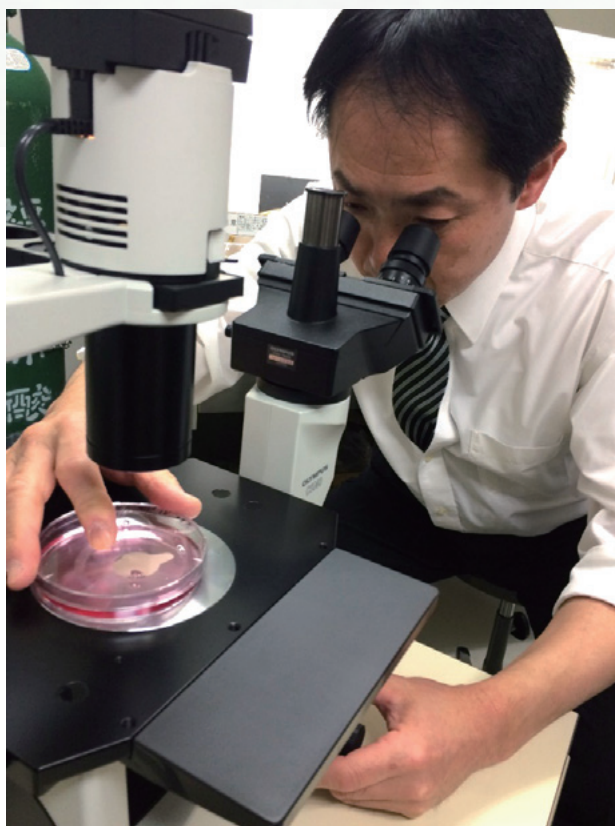
芋川 浩



▲世界で2例目となるイモリの培養細胞株



▲特許をとったスキンケア



▲研究風景

退職教員紹介

(H28.3.31 付)

人間社会学部



教授
秦 和彦

人間社会学部人間形成学科で教育学概論、教育制度論、保育学、保育実習、幼稚園実習等を担当してきましたが、定年により退職することになりました。本学の前身、福岡県社会保育短期大学の保育科に専任講師として1984年10月に赴任した時、校名の由来は社会福祉科と保育科の二つからとったものだとか聞き、拍子抜けしたことを覚えています。

その後、シンプルで明快な校名となった大学は、大学院の開設、看護学部の新設、法人化、附属研究所の設置など大きく変わってきましたが、これでお別れをいたします。

教職員の皆さん、関係者の方々には32年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。



教授
文屋 俊子

平成5年に助教授として赴任し、開学当初の先生方には親切にご指導いただきました。その後、研究倫理委員会、FD部会、大学認証評価の仕事、公共社会学科学科長など、諸先生・職員の方々に助けられなんとか職務を果たしてきました。行政等の委員会でも、漁業調整、公益等認定、大学入試センターの作問、公共交通会議など、貴重な経験をさせていただきました。不器用で成果発表できなかったものを退職後に少しずつ書きたいと思います。皆さまのご発展をお祈りしてご挨拶にかえさせていただきます。

看護学部



教授
森 礼子

平成15年4月に看護学部が創設されたときに赴任して以来13年間、お世話になりました。在職中は看護職という職業を知るいい機会をいただき感謝しています。また、教育に深くかかわるとともに、海外でいろいろな研究発表をする機会をいただきました。今後は教育の比重はかなり減りますが、研究は小学校における英語教育を中心に続けていく予定です。遠くより福岡県立大学の発展を祈っております。皆さま、どうぞお元気で。



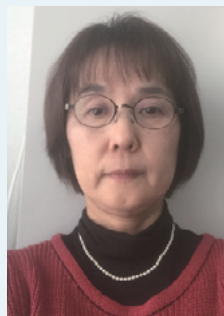
特任教授
田中 洋子

3年間の短い間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。「看護管理」を担当し、学部生には入職してからの臨床現場のイメージが持てるようにといろんな話をしました。修士生とは、看護師特定行為について考え合いました。また、従来から脳神経領域の勉強を続けていたことから、すずめもあって国試対策用に脳神経領域勉強会を自主開催しました。活動の源は「臨床現場」でしたが、皆様からのご支援を受けながら、窓に香春岳（地元出身です）を眺め充実した時間を過ごしました。大学の発展を祈念しております。



准教授
津田 智子

豊かな自然を楽しみながら、元気で明るい学生の皆様、温かい教職員の皆様と共に過ごせたことを幸せに思います。本学では基盤看護学系に所属し、基礎看護学分野の教育に携わってきました。授業や実習を通して学生の患者さんを思う気持ちに感動したり、自分の関わりを後悔したりしながら多くのことを学ばせていただきました。新しい赴任先でも、人々の健康生活を一生を通じて支える看護学の素晴らしさと専門性を実感できる教育活動を目指して努力したいと思っております。ありがとうございました。



准教授
宮城由美子

平成18年に着任し10年間の時を経ることができました。1期生からの卒業生と今日に至るまでつながることができていたことが本当に財産です。教員でもあり後輩である卒業生が日々成長している姿を見られることの喜びを与えて頂き感謝しています。そしてこの大学で多くの事を経験させていただきました。その中でも人とのつながり、先生方との出会いは感謝です。大学人そして教育・研究者としての姿勢を学ばせて頂きました。本当にお世話になりました。



特任講師
阿部真理子

平成26年4月に着任し、2年間という短期間に、過去42年間の教員生活では経験しなかったことに出会う心が忙しい日々でしたが、教職員の皆様のご親切に元気づけられました。本務の養護教諭養成に十分力を尽くせなかったことに対しては、ここでの経験をもとに力のある養護教諭の育成を目指しても、もうひと頑張りしようと思っています。

福岡県立大学のさらなる発展と皆様方のご活躍を祈念いたします。大変お世話になりました。ありがとうございました。



助教
坂田志保路

8年間大変お世話になりました。先生方や事務局の皆様方の温かいご支援やご指導のおかげで、いろいろな経験や学びを得させていただきました。また、筑豊の豊かな自然に囲まれ、学生や臨床現場のスタッフの皆様と共に、人・生活・人生・看護・教育・研究等について学び合う日々も私にとっても贅沢なひと時でありました。本当にありがとうございました。これからの生活においても、今まで学ばせていただきましたことも思い出しながら、一歩一歩前に進んでいきたいと思っております。今後の福岡県立大学の皆様方の益々のご健勝と、大学の発展を祈念しております。

福岡県立大学基金のご案内

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実を図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の実施に活用されますが、用途を指定することもできますので、皆様のご支援をお願いします。

なお、公立大学法人である本学への寄附は、所得税や法人税、個人県民税等の優遇処置が設けられていますのでご活用ください。

【寄附金受入口座】

福岡銀行 伊田支店 普通 2100481
口座名義 公立大学法人福岡県立大学 柴田 洋三郎

※寄附をされる場合は、事前にご連絡をお願いします。

【連絡先】

事務局総務財務班 TEL 0947-42-2118



入学者のみなさまへ

●学生自治会費

新入生:20,000円、編入生:10,000円

○自治会費とは

学生が行う学内活動の運営費は、学生が納める自治会費によってまかなわれています。

●後援会

福岡県立大学後援会は、大学と保護者の連携のもとに、学生の就職活動やキャリア形成支援、学生の修学や課外活動の助成学生生活の安全対策等の各種支援事業を積極的に行っていきます。

【後援会費】

	入会金	会費
学部生	40,000円	40,000円
編入生	40,000円	20,000円
大学院生	本学出身者 (在学時後援会加入者)	0円
	本学出身者 (在学時後援会未加入者) 及び他大学卒業生	20,000円

【後援会の主な事業】

合宿フォーラム補助、実習補助 (実習時超過旅費・宿泊費・マンスリー賃貸料等)、公務員講座受講補助、合同企業説明会バス借上料、卒業アルバム作成補助、謝恩会補助、各サークルへの助成 (登録費・遠征費・傷害保険等)、図書等の購入 (書籍・DVD・CD・新聞等)、大学祭補助 等

●同窓会

福岡県立大学同窓会は、県立大学卒業生をはじめ、前身校である福岡県社会保育短期大学、福岡県立保母養成所、福岡県立保健婦養成所、福岡県立公衆衛生看護学校、福岡県立看護専門学校の卒業生と準会員である福岡県立大学在学中で構成されています。多くの同窓生が全国各地の保健・看護・行政・企業・社会福祉関係等様々な分野で活躍しています。

【同窓会費】

入会金：10,000円(入学時)、年会費：1,500円(卒業後)

【同窓会事業】

会報の発行・WEBサイト・ブログ更新、同窓会名簿の編集、同窓会総会 (2年に1回開催)、大学の発展に関する協力、会員及び学生の就職活動援助、社会貢献事業

【連絡先】

福岡県立大学同窓会 (開局日：月・水・金)
福岡県田川市伊田4395 福岡県立大学3号館1階3108号
TEL (FAX 共用) 0947-42-2777

●福岡県立大学生生活協同組合

【出資金】

15,000円(卒業時にお返しします)

【学生総合共済・学生賠償責任保険】

生命共済:12,800円(1年間の掛金)、火災共済:2,000円(1年間の掛金)、学生賠償責任保険:5,800円(学部生:4年間の保険料)・3,120円(大学院生:2年間の保険料)

大学生生活で起こりうる、もしもの場合に備えるためのものです。実習等に参加する場合には、賠償責任保険に加入する必要があります。詳しくは福岡県立大学生生活協同組合配布のパンフレットで確認してください。

